ちょっと立ち止まって (3)

桑原 茂夫

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

序論	本論		
1	2〜5	6・7	8・9
ものの見方についての話題の提示 **事例** ・ルビンのつぼ ・公園の風景	見るという働きには、中心に見るものを一瞬(いっしゅん)で決めたり、変えたりすることができる一面がある。 **事例** ・若い女性とおばあさんの絵	あるものを別のものと見るためには、今見えているものを意識して捨て去らなければならない。 **事例** ・化粧台(けしょうだい)の前に座(すわ)っている女性とどくろの絵	近くから見るか遠くから見るかによって違(ちが)うものとして受け取られる。 **事例** ・富士山(ふじさん)、ビル

結論
10
まとめ 一つの物でも、見方によって見えてくるものが違う。 **主張** 物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見方を試(ため)すと、その物の他の面に気づき、新しい発見のおどろきや喜びを味わうことができる。

（1〜10は教科書本文における形式段落番号を表します）

要旨

文章や筆者の考えの中心となる内容を要旨(ようし)という。要旨は結論に表れることが多い。要旨を捉(とら)えるためには、文章の構成に注目し、結論を見つけるようにするとよい。

確認テスト 教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 4段落の公園の風景の事例は、何を述べるためのものか。適当なものを選びなさい。

ア あるものを、別のものと見るためには、今見えているものを意識して捨て去る必要があること。
イ あるものが、見るときの距離(きょり)によって、別のものとして受け取られることがあること。
ウ 見るという働きには、中心に見るものを、一瞬のうちに決めたり変えたりする一面があること。

〔　　〕

(2) 本文中で、「若い女性に見えたりおばあさんに見えたりする絵」は、何を述べるための事例か。最も適当なものを選びなさい。

ア あるものを別のものと見るためには、今見えているものを意識して捨て去る必要があること。
イ あるものが、見るときの距離によって、別のものとして受け取られることがあること。
ウ 見るという働きには、中心に見るものを、一瞬のうちに決めたり変えたりする一面があること。
エ コートに顎(あご)をうずめたおばあさんは、奥(おく)の方を向いた若い女性に見間違(みまちが)われることもあるということ。

〔　　〕

(3) 本文中で示されている図や事例をまとめると、どのようなことが導かれるか。適当なものを選びなさい。

ア 見えるものが変わってしまうこともあるので注意が必要だ。
イ 人は、ひと目見たときの印象を変えることができない。
ウ 一つのものでも、見方によって見えてくるものが違う。
エ 別の見方を指摘(してき)された経験は、誰(だれ)にでもあるものである。

〔　　〕